

第 251 回 昭和の森自然観察会

タネのひみつウツチング

木嶋 恵子(睦沢町)

日時：2012年11月11日(日) 13～15時 天候：曇り

参加者：7名(うち子ども2名) 指導員：16名

担当指導員：晝間初枝 栗山忠俊 木嶋恵子

低い雲の下に冷たい風が吹く寒い日で、参加者も少なめでしたが、受付後、晝間さんが採取し美しい標本にした沢山の種子や栗山さんが撮った貴重な写真を見て、感嘆の声をあげていました。

今年は全国的に「木の実」が不作だといわれていますが、ここ昭和の森でもコブシやハナミズキ、ニシキギ、アオキ等の実を見つけることはできませんでした。ケヤキやカエデの実も少ないようでした。そこで今回の観察会は、「風散布の種子」と「動物の体について運ばれる種子」を中心に観察し、最後に種子の模型を作って飛ばす体験をしてもらうことにしました。コースは、第2駐車場・東屋付近から出発し、冒険広場を横切り、もみじ広場へ行き、そこから下へ降り、スギ林からつつじ園へ向かい、サイクリングロードを渡り、市町村の森から出発点に戻るというものです。割合短いコースでしたが、そのぶんじっくり観察し、ゆっくり回れました。

観察した種子は観た順に、ネムノキ、ケヤキ、キリ、イヌシデ、カエデ、チヂミザサ、オオオナモミ、イノコヅチ、ヌスビトハギ、ミズヒキ、ヨウシュヤマゴボウ、マムシグサ、ヒヨドリバナ、アメリカセンダングサ、ヤブミョウガ、アカザ、カラスウリ、ヤマノイモ、チカラシバ、クロガネモチ、スダジイ等でした。翼や毛など種子がとぶ手段を持っているものは、飛ばしてみました。カエデは2個くっ付いたままでは、ストーンと真下に落ちるのに1個ずつに離れると、クルクル回りながら飛ぶことを確かめました。ひつつき虫といわれる種子は、ルーペで鉤状の突起などを見た後、配布した布切れに付けました。オオオナモミは、ひつつき虫である他に水で運ばれることもあるということを実験で確かめました。オオオナモミだけでなく、クルミ、ジュズダマ、ドングリ類など、いっしょに水にいれてみました。皆さんの予想を一番裏切ったのは、重そうなクルミが浮いたことだったようです。鳥を誘う手段として、赤色で目立つ(マムシグサ)他に、二色効果で目立つ(ヨウシュヤマゴボウ)、紫外線を反射する(ヤブミョウガ)等があることを実物を見て納得しました。カラスウリの実は、切つてとろける様な果肉を見た後、種子がカマキリの顔(クロワッサン)に似ていることを確かめました。スダジイの木の下には、実生の幼木が沢山生えていました。親木から離れた場所でないと育たないことを知った後、みんなで実を拾って食べました。出発点にもどって後、種子の模型を作り飛ばして楽しみました。5種類の模型は、風によってフワフワ飛んだり、クルクル回転しながら飛んだりして、皆さんから歓声が上がりました。

ふり返りでは、男児(4～5歳)の「種子のしくみが良くわかった。」という感想と同様のものがほとんどでした。2人の幼児に良くわかる説明や問いかけが、大人の方々の理解も深め、全体として楽しい雰囲気での観察会になったと思います。



カラスウリの実と種